

塙先生の遺徳を偲ぶ 遺徳顕彰祭にぜひご参加ください

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会では毎年、塙保己一の命日である9月12日に遺徳顕彰祭を行っています。この催しは、祭壇に飾られた塙保己一の遺影に対し、その遺徳を偲び来場者全員で菊の花を捧げるものです。

本年も下記のとおり開催いたします。皆さまのご来場をお待ちしております。会員以外の方もご参加いただけます。ぜひご参加ください。

日 時 9月12日（水）
午後2時 開式
（午後1時30分から受付）

内 容 主催者・来賓による献花
来場者全員による献花

記念公演 おぬきのりこ&杉山茂生ジャズトリオ

～塙保己一に捧ぐ～ 演奏バンド
その他のジャズの演奏もお楽しみください



献花をした金屋小の子どもたち



昨年の授賞式の様子

第12回塙保己一賞

日時：12月15日（土）午後1時～
場所：児玉文化会館 セルディホール

郷土が生んだ偉人「塙保己一」のように、障害がありながらも不屈の努力を続け社会的に顕著な活躍をしている方や障害者を献身的に支援している方を表彰する「第12回塙保己一賞表彰式」を開催します。（埼玉県主催・本庄市共催）

〇平成30年度顕彰会総会を開催しました

5月26日（土）に平成30年度総会を開催しました。平成29年度事業・決算報告や平成30年度事業案等の審議のほか、没後200年の記念事業として「塙保己一物語」小冊子の発行・モニュメント及び垂れ幕の作成・200回忌の式典の開催・塙保己一を題材とした映像化への要望と、4つの柱となる事業が承認されました。

また、記念講演は、盲目でありながら中学校の現役の教師を続けていらっしゃる、新井淑則氏が『心はいつもバリアフリー』 ～共生社会をめざして～ と題した講演をおこないました。



群書類従の版木を保管する公益社団法人「温故学会」から「塙保己一 ことども」と題した小冊子が刊行されました。温故学会のご協力により、掲載させていただくことになりました。子供からお年寄りまで、読みやすくわかりやすいお話となっております。

塙保己一 ことども

(提供：公益社団法人 温故学会)

第二編 塙保己一「たった一度の帰省」



理事長 齊藤幸一氏

塙保己一は、十五歳で江戸に出て雨富検校に入門し修業の道に入りました。その後、ひたすら学問の道に進むことで忙しい日々を送ります。

そのため思うように故郷の保木野に戻ることはできませんでしたが、文政二年（一八一九）七十四歳のときに一度だけ帰省していると思われます。

『上京日々記』によると、江戸を四月八日に出発し、東海道をのぼり名古屋に七日間、宇治山田に七日間、京都に三十九日間、大坂に十日間滞在し、文献調査や盲人一座の仕事、また借入金相談に赴いています。帰りは中山道を下りますが、京都を五月二十四日に出発し、途中中津川、上諏訪を経由して六月五日に倉賀野に宿泊しています。しかし『日記』を見ると六月八日に熊谷と書かれています。

ここには、二日間の空白の時間があるわけで、恐らく保木野に向かい親族や旧友との面会を果たしたのだと思います。実に六十年ぶりの故郷でした。

同行したのは、門人の中山信名と加藤注蒸です。出張（文献調査等）の場合、公儀へ旅程を提出しお伺いを出さなければなりません。そのための配慮から故郷に立ち寄ったことを伏せたと考えられます。

この時、検校ですから駕籠に乗っての移動だと思われませんが、七十四歳で九十一日間の旅は、さぞきつかったことでしょう。

荒井一夫委員 温故学会にて記念講演



5月5日に渋谷の温故学会講堂にて「塙保己一検校生誕第272年記念大会」が開催されました。顕彰会事業部委員として活動されている荒井一夫委員が「今日における塙保己一生誕地本庄地域での顕彰活動」―自治会活動や市民による群読劇を中心に―と題した講演を行いました。合併後の顕彰会の活動として墓所の移転・少年像の建立・自治会へ向けての出前講座について、小中学校での取り組みとして教室への肖像画の掲示・授業での記念館への訪問・15歳で江戸へ旅立ったことを受けて中学生が「志」を発表する立志式について、平成25年からご自身が「群読劇塙保己一物語劇実行委員」として活動されている市民による群読劇について等、幅広い内容を紹介し、生誕の地本庄での取り組みを語りました。この講演会には、温故学会の会員のみなさんや塙先生のご子孫などが参加され、故郷での熱心な活動に聞き入っていました。また、この講演内容が温故会発行の「温故叢誌」に掲載されます。

十二月には、熊谷市での公演も決定し、さらなる広がりを見せています。塙保己一の知名度アップに繋がるものとして期待されています。



上里での練習風景

平成三十年八月五日、上里町のワープ上里において、上里町を中心に児玉郡市のみなさんが出演し、行われました。

群読劇
「塙保己一物語」
各地で公演

新聞記事から見た塙保己一の顕彰活動

これから紹介する新聞記事は、「塙保己一」に関連したものを抜粋した本庄市の資料館にある新聞資料の一部です。東京日日新聞の埼玉版に大正七年六月二日に掲載されたもので、一番古い資料です。

他県に類無き

保己一講

智徳養成の好機関

既記、児玉郡金屋村大字保木野保己一講の現況に就き當局の調査せた所に依れば保己一講は先生の事跡に基き講員各自の智徳を薦め勤儉力行の習慣を養ひ以て醇良なる卿党を成さんとする目的にて

☆事務所を 同村龍清寺に置き

之が目的を達する為毎年一月、九月の二回各十二日に総会を開き故保己一先生の祭祀を行ひ毎月十二日に例会を開き戊申詔書奉体に関する講話会を開き保己一先生の事跡を研究して之が実践事項を定め経済衛生等の智徳を養ひ

☆共同購入 を為すことなり居

れるが明治四十四年十月廿七日設立以来総裁に角田鹿太郎氏、講長に高木眞浄

氏、副講長に清水麻次郎、森田勇平の両氏顧問に清水貞吉氏他六名を推し講の発展を図り居る結果四十五年一月より大正六年度末迄に五年据置貯金六百六十一円餘を有するに至り

☆別に講員 の寄附金を以て

木版刷群書類従を購入するに決し寄附金に依り已に百二十餘円を払込み三百七十冊を購求したる外四年度内同会に於て共同購入を為したる肥料、農具等二千三百五十一円八十八銭に達したり而して講員各自は蠶業の統一發達を計らんが為め

☆蠶業組合 を設け益々斯

の改善進歩に全力を傾注し其成績大に見るべきものあり又回講の日課として毎朝講員一同（目下七十八名あり）合図に依り起床神仏■拜して後業務に就くことゝ為しあるなど県内は勿論他府県にも多く其例を見ざる出色のものなり

※文中の■は文字が判読できないもの

◇東京日日新聞（とうきょうにちにしんぶん）◇現在の『毎日新聞』（東京）の前身で、明治五年二月二十一日に創刊された東京発の日刊紙

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会の会員を募集しています。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会では塙保己一先生の遺徳顕彰し、幅広い啓発活動を行っています。会員のみなさまの日頃のご協力に感謝申し上げます。

塙先生顕彰推進のため今年度も会費の納入につきまして、よろしくお願いいたします。

みなさまのご協力をなにとぞよろしくお願いいたします。



年会費 個人会員 一口 千円、 賛助会員（団体） 一口 一万円

入会と会費納入の受付場所 本庄市役所 4 階生涯学習課と本庄市児玉文化会館（セルディ）
児玉公民館（アスピアこだま内）で受け付けています。

※ 郵便振替でもお申込みいただけます（ご希望の際には、下記へご連絡ください）。

発行 総検校塙保己一先生遺徳顕彰会

事務局 本庄市教育委員会 生涯学習課 本庄市児玉文化会館（セルディ）内

所在地 367-0216 埼玉県本庄市児玉町金屋 728-2

電話 0495-72-8851 FAX 0495-72-8854

※点訳ボランティアグループ「ほきの六点会」の皆様により会報誌の点字翻訳版を作成していただきました。ご希望の方は、事務局までご連絡ください

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会 会報誌

第32号

平成30年9月号



ごあいさつ

日中の暑さは盛りながらも朝夕には虫の声が心地よい季節となりました。

みなさまにはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。当顕彰会に対する日頃のご協力に厚く感謝申し上げます。

さる5月26日に開催しました顕彰会総会では、会員の皆様多数ご出席のもと議事を行わせていただき、すべての議案について原案のとおり議決・了承をいただきました。また、総会後の講演会では、盲目の中学校教師である新井淑則氏に「心はいつもバリアフリー」～共生社会をめざして～と題したお話を伺いました。自然体でありながら、努力を重ねて目標に向かう姿が、塙先生の姿と重なり、顕彰会総会にふさわしい講師をお招きできたと思っております。

さて、総会でも触れましたが、顕彰会では、これから活動の柱となります塙先生没後200年記念事業の一つである「塙保己一物語（仮称）」の小冊子発行に向けて専門部会を立ち上げ、来年には皆様にお披露目できたらと考えております。これからも顕彰会とその活動の発展のため、更なるお力添えをお願いいたします。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会

会長 吉田 信 解